

ふるさととよさが 今と昔

その7 移転した、国鉄 早通駅

■昭和45年、移転開業したばかりの早通駅

早通駅の1番線ホームから葛塚駅（現豊栄駅）方面を望む。昭和44年11月に3棟が完成したのを皮切りに、県営団地が続々と建設中だ。



現在は住宅が立ち並び、県営住宅は見えない。ホームが拡張され、6両目までカバーされている。



■早通駅前の様子

昭和45年撮影（左写真）。現在は交番や郵便局などが立ち並び、



■県営団地入居開始

昭和47年5月、建ったばかりの県営団地に入居する人々。数十台の車両が行列をなし、一斉に家財道具を運び入れた。



早通駅は、葛塚駅から遅れること5年経った昭和32年2月11日、黒山駅とともに開業しました。このころは早通踏切の隣に設置されていました。昭和45年10月、県営団地の建設などに伴い拡張され、約200m葛塚駅寄りの現在の位置に移転しました。線路が2本ひかれて列車のすれ違いができるようになり、ホームも1.5倍の長さに拡張されましたが、それでもホームにかかる車両は前から4両目まで。当時、自動ロック機能がなかった蒸気式列車の早通駅停車は見送られ、ディーゼル式列車のみの停車でした。県営住宅しかなかった早通駅周辺ですが、昭和50年代にはほぼ現在の住宅地が形成されました。



ジョークを交えた講義と指導

10月3日(日)、水の駅「ビュー福島潟」で「にほんかい自然写真学校秋季講座」が開かれ、県内外から42人が参加しました。

早朝5時から撮影会、その後はにほんかい自然写真学校の神吉猛教授のスライド講演や作品クリニックが行われ、楽しい一日を過ごしていました。



快晴で迎えた第1回「岡方むら祭り」

10月17日(日)、高森薬師の大ケヤキの下で、長戸呂の稚児舞と高森の神楽や地元カラオケ愛好者の歌が披露され、集まった400人が楽しみました。商工会岡方支部主催のこの祭りは、古い歴史をもつ「いろいろ岡方」の文化を大切に育て、地域を元気にしていこうと開催されたものです。



ふるさと四方山講座

博物館が10月に3回シリーズで開催した講座です。暮らしの中の話し言葉（方言）、和服から洋服への動き、昭和の新潟を生き抜いた女性たちをテーマにそれぞれ語られました。10月17日(日)の第2回では里村洋子さん（早通南4）が戦後の服装の変化や農村女性の服装の変化について語り、参加者はなつかしい話題に聞き入っていました。



戦没者に思いをはせて

10月9日(土)、総合体育館で「戦没者追悼平和祈念式」が行われました。

大体育室のステージの上には、先の第2次世界大戦で戦死された豊栄市（葛塚町・木崎村・長浦村・岡方村）出身者512人の名前が並び、全員で1分間の黙とうをささげたほか、記念映画の上映などが行われました。



ワン、ツー、クイック

10月17日(日)、中央公民館で「車いすダンス講習会」が開かれました。

参加したのは車いすの利用者約15人とその家族など、計50人以上。初めは車いすのタイヤに足を踏まれないようギクシャク気味でしたが、次第に形になり、楽しいダンスの時間を過ごしました。



福島潟の将来を考える

10月24日(日)、水の駅「ビュー福島潟」で、「福島潟交流会2004」が開催されました。

これは、福島潟のラムサール条約登録を考えようと「ねっとわーく福島潟」が主催したシンポジウムで、全国の湖沼の専門家が参集。約3時間にわたり、ラムサール条約についての講演や事例報告、意見交換が行われました。



阿賀北の歴史についてともに学ぶ

来年3月の合併を控え、中央公民館と新潟市北地区公民館では、講座「とよさかと北地区の交流縁日」第1弾を開催しました。

10月22日(金)には新潟市北地区公民館を訪れ、豊栄市・新潟市北地区の市民がともに阿賀北地域の歴史などについて学びました。

11月27日(土)から第2弾が始まります。詳しくは同封のおしらせ版をご覧ください。



光のイルミネーションで地域を照らす

10月23日(土)、JR早通駅北口ロータリー内で、手づくりのろうそくを並べて火を灯し、地域の玄関口を彩るイベントが開催されました。

これは、早通地域コミュニティ委員会と新潟大学教育人間科学部が合同で行ったもので、200人以上が参加。日が暮れるにつれてとても幻想的になり、大勢の人が足を止めて光のイルミネーションに見入っていました。